眞樂寺

大谷派　小田原市国府津

勸山信楽院と号す。伝えによれば、往古は聖徳太子の開闢による天台宗の古刹であったが、安貞 2 年（1228）に時の住持・性順が、相模の国を巡教されていた親鸞聖人に帰依し、本願念仏の教え（浄土真宗）に改め、「眞樂寺」の寺号を賜ったと伝えられる。『大谷遺跡録』には親鸞聖人が５６歳の頃より、常陸の国の稲田から国府津に足を運ばれていたことが記されている。

さらに貞永元年（1232）秋、聖人 60 歳の時、常陸国を出て京へ向かったが、国府津の里まで来て、

眞樂寺

教えを請う人々に引き留められて、62 歳の 8 月までここに逗留したという。この間に北条泰時や平貞頼の招請により鎌倉へも往復したと『大谷遺跡録』や『二十四輩巡拝図會』には伝えている。これは覚如上人著の『口伝抄』に書かれている鎌倉幕府の「一切経御校合のこと」。その時の拠点の一つが鎌倉より程近いこの地であったと推測することが出来る。

暮らしに じぃーん 真宗大谷派 東京教区
© 真宗大谷派東京教区　当ホームページに掲載されているあらゆる内容の無断転載・転用を禁止します。